

清平調詞(その二)

李

白

一枝の濃艶露香も凝らす

雲雨巫山枉ゲて断腸

借問す漢宮誰か似たるを得ん

可憐の飛燕新粧に倚る

【作者】李白(七〇一〜七六二年)中国、盛唐の詩人。字、太白。号、青蓮居士。若い頃は任侠を好み、四川を振出しに、江南、山東、山西を遊歴。

四十二歳のとき長安に出て賀知章らに推挙されて翰林供奉(ぐぶ)となったが、高力士に憎まれてまもなく追われ、また放浪生活に入り、その間、杜甫とともに旅をしたこともある。のち安祿山の乱のとき永王の軍に加わったため夜郎(貴州省)に流されることになり、途中で大赦にあい、また各地を往来するうちに安徽省で死んだ。杜甫とともに中国最高の詩人として「李杜」と並称され、杜甫が「詩聖」と呼ばれるのに対して「詩仙」と呼ばれる。絶句と樂府(がふ)を最も得意とし、自由奔放で豪快な盛唐の詩風を代表する。詩文集『李太白集』がある。

【語釈】\*一枝:ひとえだ \*紅艶:あざやかな紅い牡丹の花 \*雲雨:神女の姿。楚の懷王が夢の中で巫山の神女と交わった。 \*巫山:重慶市巫山県と湖北省の境にある名山。楚の懷王が夢の中で巫山の神女と交わった。 \*借問 尋ねる。 \*飛燕:趙飛燕。前漢の成帝の寵愛を受けた。美人の代名詞。しかし後年、王葬に弾劾されて庶民となり、自殺した。 \*枉:いたずらに。むなしく。 \*新粧 化粧を新たに塗りたてて。

【通釈】一枝のあざやかな紅い牡丹の花が、露にまみれ、香りを漂わせている。雲となり雨となっても貴方と会いたいと言った巫山の神女も、楊貴妃の前では空しく心碎かれるだけでしよう。お聞きします。漢の後宮の中で、他にこんな美人がいますか。その可憐さで知られる、前漢の飛燕が新しく化粧を装っている姿。それこそが楊貴妃と並び立つものでしょう。